

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 佐々木 泰

編集人 片岡 伸子

No.697 = 野間読書推進賞特集 =



受賞者とその推薦者・関係者と、野間省伸会長、選考委員のみなさん



2025年(令和7年)

野間読書推進賞受賞者表彰(第55回)

☆受賞者

団体の部

・公益財団法人

ふきのとう文庫

(北海道)

個人の部

・岩田 美津子さん

(大阪府)

☆賞

賞状および賞牌

☆副賞

金三十万円(団体の部)

金二十万円(個人の部)

野間読書推進賞は、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を、全国から寄せられる推薦のなかから選り、顕彰するもので、毎年、「読書週間」の期間中に贈呈式が行われています。

× × ×
本年の贈呈式は、11月7日(金)午前11時から、東京都千代田区出版クラブビルにおいて、受賞団体の代表者および受賞者2名と推薦者など受賞者関係者、読書推進運動関係者の出席のもと開催されました。

式は野間省伸・公益社団法人読書推進運動協議会会長のあいさつで始まり、次に選考委員会を代表し、黒木義博さんが選考経過報告を行い、野間会長より受賞者へ賞が贈呈されました。続いて、文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 図書館・学校図書館振興室 専門官 稲田幸昌さんの祝辞のあと、各受賞者があいさつに立ちました。

贈呈式後の祝賀会会場には、受賞者が持参した布の本、てんやぐ絵本などが多数展示され、ちよつとした見本市のよう。歓談の輪が広がる、和やかな雰囲気となりました。

受賞者業績

《団体の部》

公益財団法人 ふきのとう文庫

住所 北海道札幌市
代表理事 高倉 嗣昌 さん

公益財団法人 ふきのとう文庫は「障害をもつ子どもにも発達があり、文化を享受する権利がある」を信念に、半世紀以上活動してきました。

母体となったのは、初代理事長小林静江さんが1970年に江別市で開いた家庭文庫です。ご家族の療養生活の看護経験から、在宅療養児・障がい児へ読書の喜びを届ける必要を感じた小林さんは、家庭文庫を身体障がい児専用に切り替えました。その後、病院や特別支援学校への働きかけを経て、1973年に小樽市立病院小児科病棟レイルームに日本初となる病院文庫「ふきのとう文庫」を設置。あわせて、在宅療養児への圖書の貸出も始めました。身体障がい者への録音テープや圖書の郵送料の無料化を求める国会請願にも尽力し、1976年に身体障がい者団体の第三種郵便料金の据置と身体障がい者への書籍小包半額の成果へとつなげました。1979年に財団法人の設立許可を得て、1982年に札幌市に拠点となる「ふきのとう子ども図書館」を開館しました。

い者への録音テープや圖書の郵送料の無料化を求める国会請願にも尽力し、1976年に身体障がい者団体の第三種郵便料金の据置と身体障がい者への書籍小包半額の成果へとつなげました。1979年に財団法人の設立許可を得て、1982年に札幌市に拠点となる「ふきのとう子ども図書館」を開館しました。

ふきのとう子ども図書館は一般に開かれた蔵書約1万6000冊の図書館ですが、その特徴は図書館内に独自の工房を設け「拡大写本」「布の本」など、障がいのある子どもたちのための本をボランティアが手作りしていることです。特に布の本は、布のあたたかさ・やわらかさに加え、ボタンやファスナーなどを用いたしなやかで、子どもたちが障がいの有無や年齢を問わず一緒に遊べるように工夫されています。これらのバリアフリー図書は同館で閲覧・貸出されるほか、病院や公立図書館などへ寄贈・貸出・販売され、作成ノウハウを蓄積し、館内だけでなく外部へ伝

えるなどネットワーク形成にもつながっています。

近年では、近隣小学校図書館ボランティアとの交流、民間企業との連携、日本財団「子ども第三の居場所」として子育て拠点「ふきのとう・こどもクラブ」の新設など、さらに事業を広げています。

小林静江さんは2017年に亡くなりましたが、その思い・意志を引き継いで、ふきのとう文庫は、地域の読書普及、読書バリアフリーの実現にこれからも大きく貢献していきます。

【推薦者】

札幌市教育委員会

教育長 山根 直樹



《個人の部》

岩田 美津子 さん

住所 大阪府大阪市

岩田美津子さんは、ご自身が全盲です。晴眼者である息子さんに「ふつうの親子のように、絵本を読んでもあげたい」と思ったことがきっかけで、「さわる絵本」と出会いました。いろいろな絵本をもつと気軽に、自由に読みたいと願った岩田さんは、友人・ボランティアの協力を得て、「てんやく絵本」の製作に乗り出しました。今から40年以上前のことです。

市販の絵本の文字を透명한シートに点訳して、文字の上に重ねて貼り、絵の部分も可能な範囲でシートで形を切り抜き、絵に重ねました。親子で絵本を楽しむ素晴らしさを、同じ立場の人たちにも味わってほしいと願い、1984年、岩田さんは自宅に「点訳絵本の会 岩田文庫（現・てんやく絵本ふれあい文庫）」を開き、郵送で「てんやく絵本」の貸出を始めました。貸出にあたり、点訳絵本の郵送料無料化を国に働きかけ、1987年に無料化が実現しました。現在「てんやく絵本」は、

全国のボランティアにより年間2500〜300冊が作られ、ふれあい文庫の蔵書は約1万冊。年間約5000冊が、利用料・送料無料で全国に貸し出されています。

岩田さんの思いは、「見えない私たちも、見える人と同じ環境で生活したい」「子どもと図書館や書店へ行き、絵本を手取りたい」と、さらに広がります。図書館や書店に見えない人が楽しめる絵本を置いてもらうには出版するしかないし、「てんやく絵本」の出版化に向けて試行錯誤を続け、1996年に日本初のフルカラー点字つきさわる絵本『チヨキチヨキチヨッキン』をこぐま社から出版しました。このときにできた出版社・印刷会社・子どもの本関



係者との結びつきから、「点字つき絵本の出版と普及を考える会」が2002年に発足し、現在、複数の出版社から約30点の点字つきさわる絵本が刊行されています。

点字つきさわる絵本をもっと知ってほしいと、岩田さんはパネル・資料などの展示セットも用意しており、希望する図書館やイベント会場などに貸出もしています。絵本は「見るもの」の概念を「見て、さわるもの」に変えたい。子どもたちには親の愛情とぬくもりを受け取りながら、視覚で絵本を楽しむ、指で伝わる感覚を感じてさまざまな想像をしてほしい。点字つきさわる絵本を障がいのある無に関わらず子どもたちと楽しむ意義を、読み聞かせの現場にも知ってほしいと、岩田さんは願っています。

これまでも、多数の賞を受賞しており、1998年には国際児童図書評議会（IBBY）より「IBBY朝日国際児童図書普及賞」を贈られるなど、その活動は国内外問わず、高く評価されています。

【推薦者】

一般財団法人

出版文化産業振興財団

理事長 近藤 敏貴

★受賞決定までの経過

●2025年（令和7年）5月15日

全国都道府県教育委員会委員長および教育長、都道府県中央図書館および読書推進運動協議会のほか、全国市町村教育委員会連合会、日本PTA全国協議会、日本新聞協会、日本放送協会、日本民間放送連盟などに候補者推薦を依頼しました。

●2025年（令和7年）7月31日

候補者推薦締切。推薦数は11団体、4個人。

●2025年（令和7年）8月22日

野間読書推進賞事業委員会による選考準備委員会を開催。各候補者への評価・その理由を討議し、9団体4個人を選出。これについて事務局はさらに実情調査などの結果をまとめ、選考委員会に提出しました。

●2025年（令和7年）9月12日

選考委員会を開催。慎重な審査の結果、1団体1個人の野間読書推進賞受賞を決めました。



野間読書推進賞 賞牌

☆選考委員

植松貞夫

公益社団法人 日本図書館協会

理事長

黒木義博

公益社団法人 全国学校図書館協議会 読書活動振興プロジェクト担当

野上 暁

児童文学・文化研究家

一般社団法人 日本国際児童図書評議会 副会長

五十音順・敬称略



選考経過報告をする黒木義博さん

★野間読書推進賞について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、出版界と読書界との協調をはかり、広く国民各層に対し、読書の普及を促進し、もってわが国の文化と社会の進展に寄与することを目的として、1959年に創立。以来、「読書週間」をはじめ多くの事業を行っております。

「野間読書推進賞」は、「読書週間」の関連事業として1971年に創設したもので、地域・職域などにおいて、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を顕彰してまいりました。

この賞は、故野間省一株式会



てんやく絵本を手取る植松貞夫さん



祝賀会で談笑する野上暁さん（中央）

社 講談社元社長より、1969年に読書推進運動協議会の社団法人設立を機に基本財産として金1千万円、1979年には講談社創業70周年を記念して金1千万円、さらに1987年には講談社創業80周年を記念して金2千万円の寄付を受け、この基金を中心に贈呈するものです。また、2022年にも講談社より金2千万円の寄付を受けています。第1回から第14回までを「読書推進賞」と称し、1985年（第15回）から、故人の遺徳を偲んで「野間読書推進賞」と改称しました。

挨拶と祝辞



贈呈式 主催者あいさつ

公益社団法人 読書推進運動協議会

会長 野間 省伸

本日「野間読書推進賞」を受賞されるみなさま、本当に、おめでとうございます。

ご選考にあられた植松貞夫さま、黒木義博さま、野上暁さまのお三方、本当にありがとうございます。

今年も受賞者にそろってご出席をいただき、贈呈式と祝賀会を開催できる運びとなりました。お忙しいなか、ご列席くださいましたみなさまに厚く御礼申しあげます。

「野間読書推進賞」は、長く読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献してこられたみなさまに對して贈られます。1971年に始まり、第55回を迎えます。今回は本賞1団体・1個人を顕彰い

たします。受賞者は、トータル251の団体・個人の方々となりました。

本日のご受賞者は、団体・個人ともに、身体や視覚の障がいなど、ハンディキャップがあることもたちに対して、長く、粘り強く、そして創意工夫に富んだ活動をされてきました。「読書バリアフリー」への貢献に心からの敬意を表したいと思います。

また現在、第79回 読書週間が開催中です。今回の標語は「こころとあたまの、深呼吸。」です。ポスターは、例年標語、イラストともに公募によって制作をしています。今年のポスターは、読書でゆったりした時間を過ごすことの大切さを、あらためて訴えている



開式のあいさつをする野間会長

ようにも感じます。関係各位のご尽力により、全国の図書館さま、学校図書館さま、書店さまなどで数多く掲出をいただいております。あらためて感謝申しあげます。

読書推進運動協議会は、本を読むことのすばらしさを訴え続け、従来にも増してすべての方に本と親しむきっかけを提供してまいります。

読書の普及に尽くされているみなさまの、いつそのご支援とご協力をお願いしまして、ごあいさついたします。



祝 辞

文部科学省

総合教育政策局 地域学習推進課

図書館・学校図書館振興室 専門官

稲田 幸昌

文部科学省地域学習推進課図書館・学校図書館振興室の稲田と申します。お祝いのことはをひとこと述べさせていただきます。まず本日受賞されたみなさま、まことにめでとうございます。



祝賀会会場ではバリアフリー図書を熱心に視察

の運営の充実に関する有識者会議」を開催し、デジタル社会への対応、多様な人々のための読書環境の整備などの課題を検討しています。また、本年3月には、読書バリアフリー法に基づく、第二期の基本計画を策定し、点字図書など誰もが読みやすい書籍を提供する取組を推進しています。

文部科学省といたしましては、各地域において読書推進運動に取り組まれているみなさま方をはじめ、多くの方々のご協力を賜り、読書環境の充実に向けた取組を推進してまいりたいと考えております。引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年度第55回を迎えられました、この「野間読書推進賞」をはじめとする読書活動の推進に、長年にわたり取り組まれている公益社団法人 読書推進運動協議会および関係者のみなさまに心から敬意を表するとともに、本日ご参集のみなさまのますますのご活躍とご健勝を祈念申しあげ、お祝いのことばといたします。

このため、文部科学省では、昨年12月より「図書館・学校図書館

野間読書推進賞を受けて



今日の読書を
どう捉えたらいいのか

公益財団法人
ふきのとう文庫
代表理事

高倉 嗣昌(北海道)

このたび、半世紀以上の歴史を持つ「野間読書推進賞」をお受けしたことはまことに光栄であり、日々の活動に取り組んでいる当文庫関係者にとってなによりの励ましをたまわりました。

当文庫の特色をひとことで申し上げますと、私立バリアフリー子ども図書館であることです。

一般に広く開かれた図書館ですが、土地・建物は自分で所有し、図書館に加えて館内に工房を持つており、そこでバリアフリー本である布の本や拡大写本を約50人のボランティアが手づくりし、それ

を全国に広げる活動をしています。

当文庫は約50年前、家庭文庫から始まり、約40年前に拠点となる図書館を開館しました。

その点からいくと、読書推進そのものを半世紀にわたり微力ながら進めていたことになり、それを評価していただいたことはたいへんうれしいことです。ありがとうございます。

他方、これまで培ってきた「読書活動」をそのまま継続していくことだけではすまない大きな変化に直面していることも、感じざるを得ません。

まず、社会全体の活字離れに加え、電子図書の普及などによって、読書の形が多様化し、旧来の定型的な読書像が揺らいでいること。

そして、学校図書活動の広まりと深まりによって、子どもたちがわざわざ図書館に足を運ぶ必要性が低下傾向にあること。

さらに「子ども第三の居場所」などが注目され、読書が「教育的」側面によりむしろ福祉面の「子育て」の方に軸足が移りつつある

ように見えることです。

当文庫の活動に引きつけて考えるならば、当文庫がみずから製作し、おもに図書館ネットワークを通じて広めようとしている布の本の活用方法への影響に注目しなければなりません。

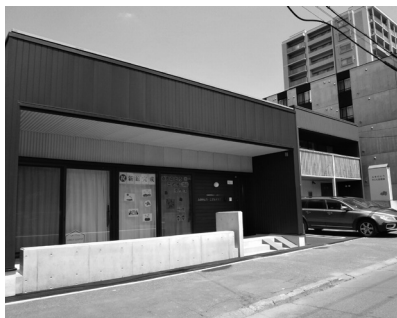
布の本は紙の本と違い、おもちゃに近いものと受け止められがちですが、当文庫を利用する子どもの年齢層が就学前に移行する傾向にあるので、直接本との関連は薄くても、ブックスタートの意

していく有力なきっかけになる存在と捉えております。

今回の受賞は、平素坦々と継続してきた「図書館活動(読書活動)」を、あらためてみつめる機会を得たという点でも当文庫にとつて有効であり、今後の新しい活動に繋げていきたいものです。

その点で、これまでの実績を認めていただいたものの以上の意味も認識しております。

賞をいただきましたこと重ねてお礼申し上げます。



「ふきのとう」子ども図書館の工房での布の本づくり
「上」図書館内のおはなし会
「下左」図書館エントランス

第55回 野間読書推進賞贈呈式



「野間」会長から賞状を受ける
高倉嗣昌さん



「受賞者あいさつでは、布の本の魅力を紹介されました

野間読書推進賞を受けて



「さわる楽しさ」を
体験してください！

岩田 美津子（大阪府）

今からおよそ半世紀前、見えない私がわが子と絵本を楽しみたいと思ったとき、それに応えてくれる絵本はほとんどありませんでした。そこで友人の知恵を借りて考えたのが「てんやく絵本」です。市販の絵本に透明なシートを使って文字を点訳し、絵も同じシートで形を切り抜き、それぞれ文字と絵のところに貼り、見える子どもと見えない親が楽しめるようにしたので、ボランティアの手作業によって作られたてんやく絵本で、私たち親子は豊かな時間を過ごすことができました。

その喜びを同じ視覚障がい者の

人たちにも味わってもらいたいと思い、1984年、郵送による賞出活動を始めました。当初はそれに送料がかかっていたのですが、この絵本も「点字用郵便」として扱ってもらえるよう郵政省(当時)に働きかけ、1987年にそれが認められ、てんやく絵本は誰とでも送料無料でやり取りできるようになりました。

その後、手づくりではなく絵もさわれる点字つき絵本が書店や図書館に並んでいてほしいと願うようになり、1996年に国内初のフルカラーの点字つき絵本『チヨキチヨキチヨッキン』を世に送り出すことができました。その反響が大きかったこともあって、みんながそれを求めていることを実感した私は、2002年に「点字つき絵本の出版と普及を考える会」を発足させたのです。

当時は10数名だった参加者も今では60名程の集まりになり、出版社も15社を超えています。そして、これまでに復刊を含めて31冊の点字つきさわる絵本が出版されました。これらは見えない人用の

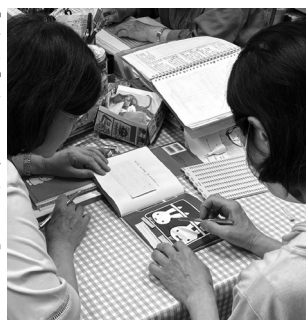
絵本ではありません。見える人もさわって絵本の世界を広げてほしいのです。

さわることの楽しさを体験してもらうために、今、私たちは図書館などに展覧会の開催を呼びかけています。この巡回展を進めるとき、最大のネックになるのが展示物をやり取りするための送料です。図書館は予算に余裕がないところが多く、さりとてボランティア団体であるふれあい文庫にもその余裕はありません。今年度は伊藤忠記念財団より助成金を得られ、それで賄っていますが、来年度はどうしようと思っていたと



き、この「野間読書推進賞」の受賞が決まり、それに副賞がついていることを知りました。それがどれだけうれしかったかわかりません。これを送料に当てることができることにより、来年も継続できることになります。

この受賞を励みに、もともとつと多くの図書館で、展覧会を開催してもらえるように働きかけていきたいと考えています。



「上・右 岩田さんが始めた「てんやく絵本ふれあい文庫」では、ボランティアさんがてんやく絵本の制作に大活躍！

第55回 野間読書推進賞贈呈式



→須原正好さんの介添えて賞状を受ける岩田美津子さん



→受賞者あいさつでも、さわる絵本の普及を呼びかけました

野間読書推進賞 これまでの受賞者からの近況報告

第21回 1991年

団体 佐賀県親と子の読書会協議会(光岡澄子さん) 佐賀県

*受賞者のみなさま、おめでとうございませう。読書活動の大切さを広めるため、いろいろな場で活躍されておられる方々、ほんとうにおめでとうございませう。私たちの読書会も、来年50周年を迎えます。個人 小林静子さん(栃木子ども本連絡会) 栃木県



左から木刈親子読書会の熊谷徳子さん・栗山由香さん、スギヤマカナヨさん

たかと存じます。すべての子どもたちが等しく読書できる社会を！

第24回 1994年

個人 清水達也さん(「遊本館」継承者 清水喜久栄さん) 静岡県

*おめでとうございませう。故清水達也の関係で北海道文学館を訪れ、札幌市内も散策しました。余裕があればふきのとう子ども図書館を訪ねたかったです。札幌は知人たちがいる懐かしい土地です。

第25回 1995年

団体 名寄市の図書館(工藤久美子さん) 北海道

*一步一步着実に活動が続けいらつしやる方々から、力をいただいています。

奨励賞 板野町読書会(橋本雅公さん) 徳島県

*栄えある受賞、たいへんおめでとうございませう。これからもういっそうのご活躍を心からお祈り申しあげます。

第30回 2000年

奨励賞 読書会 一休さん(原田純子さん) 北海道

*受賞されたみなさま、まことに

本年の贈呈式にあわせていただいた、これまでの野間読書推進賞受賞者からのメッセージ、近況報告をご紹介します(文章を一部、割愛しています)。

おめでとうございませう。私も読書会は8名で月1回の例会を続けています。本を通して語りあうことのできるこの場が、ほんとうに

いとおしいと感じています。特別賞 大塚笑子さん(朝の読書推進協議会 理事長)

*尊い思いの読書への取り組みに、深く感銘いたしました。ご受賞を謹んで喜び申しあげます。

第31回 2001年 団体 大分子子どもの本研究会(甲斐榮さん) 大分県

*第55回 野間読書推進賞を受賞された方々は、多様な人々の生涯の楽しみや学びを支えた方々で、バリアフリー図書によって、自分

にあった読書の方法を見つけた人は多いことでしょう。永年の活動に敬意を表します。

第32回 2002年 個人 吉田まさ子さん(かべや文庫) 福島県

*ご盛会をお祈りいたします。

第34回 2004年 団体 おはなしひろば「ひまわり」(田中房子さん) 徳島県

*ますますのご発展を、お祈りいたします!!

第35回 2005年 個人 宮崎なみ子さん(みやざき文庫 山形県)

*おめでとうございませう。少しずつですが、子どもの声があります。以前と異なるのは、おばあちゃん

と孫が一緒、ママと子どもたちの仲間が集まり、遊ぶ場になることがあると、喜んでいます。

第36回 2006年 個人 高橋美知子さん(NPO法人うれし野こども図書館 岩手県)

*うれし野こども図書館、元気に活動いたしております。

奨励賞 認定NPO法人 高知こどもの図書館(岡本富美さん) 高知県

*受賞されましたふきのとう文庫さま、岩田美津子さま、長年にわたるご活躍に、心から敬意を表します。おめでとうございませう。どちらさまとも高知こどもの図書館はご縁をいただいております、ほんとうにうれしく、喜びをわちあいたい気持ちです。当館も継続の力を大切に歩んでまいります。

第38回 2008年 個人 道 勝美さん(青い壺読書会 石川県)

*青い壺読書会を立ちあげて35年

になります。今年の石川県読連協の「本を読む仲間のこと」のテキストに、有吉佐和子著『青い壺』を取りあげ、読書会をしました。年月を経ても話題性の高い作品と思いました。

第39回 2009年

個人 岡光さん(読みかたりグループ「つくしんぼ」) 秋田県

*受賞者のみなさん、おめでとうございませう。退職後21年目の今も、地域や他地域の子ともたちや大人

のみなさんと、絵本を楽しんでいます。定例おはなし会では、村のALT(アメリカ人)も英語の絵本を読んで、楽しんでいきます。

奨励賞 男声読み聞かせ隊WZ(小山弘弘さん) 北海道

*ご受賞のみなさま、まことに

おめでとうございませう。今後ますますのご活躍を祈念いたします。

特別賞 永井伸和さん 鳥取県

*本との出会いを求めて、知の地域づくりを目指し歩み続ける「認定NPO法人 本の学校」の次世代

とともに、祝い喜びます。

第41回 2011年 団体 みきおはなし会*絵本の森(西尾美智子さん) 兵庫県

*会の誕生からまもなく40年。研修会のもとを作り始めて20年あ

まり、250号を超えました。その月

刊誌を記念史として、1年かけて編集作業をやってきましたが、やつとできあがり近づいてきました！

奨励賞 一般財団法人 鹿児島島県青年会館 艸舎(松下育郎さん) 鹿児島県

*しばらく休止していた読書活動を、地域ふれあい食堂(子ども食堂)の中で開催。参加の親子に喜ばれております。

第42回 2012年 団体 関音訳の会しおん(波多野いと子さん) 岐阜県

*ご受賞のみなさま、まことにおめでとうございます。長年にわたるご活動に敬意を表します。今後ますますのご活躍をお祈り申しあげ、私どもも視覚障がいの方々に喜んでいただける目とならせていただく活動をしてまいります。

第43回 2013年 団体 絵本読み聞かせの会 おむすびころりん(白内恵美子さん) 宮城県

*受賞されたみなさま、おめでとうございます。これからも、ともに楽しみながら、がんばっていきましょう！

団体 しらはま子どもの本の会(坂本美枝子さん) 和歌山県

います。当会は来年で40周年を迎えます。小さな歩みですが、会員みんなと楽しく過ごせたらと思います。

第44回 2014年 団体 NPO法人 岩手音声訳の会 岩手県

*受賞者のみなさま、おめでとうございます。ご盛会をお祈り申しあげます。

個人 成田和子さん 宮城県

*受賞されたみなさま、まことにおめでとうございます。心よりお祝い申しあげます。「読書」は人と人をつなげ心を豊かにします。読書推進運動により人の心を理解しようとする事ができれば、必ず「平和」な世界が訪れるでしょう。私の方は、賞をいただけてから11年、今年で88歳になりました。高齢で体は不自由になりましたが、気持ちを前向きに読書が続けてまいります。受賞されたみなさまと読書推進運動協議会のますますの発展を、心よりお祈り申しあげます。

個人 寺澤敏子さん 群馬県

*受賞おめでとうございます。すべての子どもたちに、生きる力となつてくれる物語を、本を届けてまいりたいものです。ますますのご活躍をお祈りいたします。この

秋は、赤ちゃんとお母さんに対してや、PTAのみなさまに対して、そして、読み聞かせボランティアのみなさまを対象に、講演依頼が続きました。初心にかえって、お話しさせていただきました。

第45回 2015年 団体 特定非営利活動法人 岩手点訳の会(横澤忠さん) 岩手県

*今回の団体の部の「ふきのとう文庫」が拡大写本や布の絵本製作をしている団体、個人の部の岩田美津子さんは「てんやぐ絵本」で活躍されている方で、ともに障がい児や障がい者のための読書推進運動に取り組んでいること、とてもうれしく拝見しました。6年前の「会創立60周年記念事業」のひとつとして、所属している岩手県

立視聴覚障がい者情報センターと相談しながら、会員から提供された絵本に、タックシールに書いた点字を貼って何冊か作成し、センタに贈呈したことを思いだしました。受賞ほんとうにおめでとうございます。

団体 藤井寺市ボランティアサークル おはなしころりん(岸田好美さん) 大阪府

*かわらず、藤井寺市内の保育園・幼稚園・小学校・図書館・高齢者施設で、読書活動(おはなし会)を発売に行っております。

第46回 2016年 団体 グループわらべ(小向孝子さん) 岩手県

*受賞されたみなさま、長い間活動を継続することは、たいへんなご努力があつたと思います。心からお祝い申しあげます。

個人 平田恵美子さん(一般社団法人 沖縄県子ども本研究会) 沖縄県

*本年度の受賞者のみなさま、おめでとうございます。10月11日・12日に沖縄県子どもの本研究会全国大会がありました。地元や他府県から多数の方が参加し、学びの機会になりました。私は、分科会「沖縄戦と平和を考える」に参加しました。

第47回 2017年

個人 川端英子さん(仙台にもつと図書館をつくる会 宮城県)

*54年続けた「のぞみ文庫」を引退し、地域のコミュニティセンター「のぞみ文庫」にゆずりました。もう一か所、石巻市に「川本の文庫」ができ、そちらにも蔵書の二部を寄付いたしました。今後は、「仙台にもつと図書館をつくる会」の代表だけになります。自宅では「向山おはなし会」を月一回、のんびりやつていきます。

個人 浅川玲子さん(NPO法人山梨子ども図書館 山梨県)

*私が子どもの読書に係わった1970年に、雑誌でふきのとう文庫を知りました。特に障がいのある子どもたちの活動に感動したことを思い出しました。私は現在96歳ですが、今は文庫活動はしていません。50年継続されていることはすごいことです。おめでとうございます。

第48回 2018年 団体 たけのこ文庫(草野三保子さん) 福岡県

*ふきのとう文庫さま、岩田美津子さま、受賞おめでとうございます。いつの時も、子どもたちに、私たちに活動を指し示してください、ありがとうございます。

左から南種子町おはなしこども会の窪田恵美さん・北村蒼良さん、ねりま地域文庫読書サークル連絡会の木村典子さん



ちも新しい環境で今の子どもたちを見守り、本を楽しむことをともに歩みたいと考えて、模索中です。

個人 牟田昭一郎さん(すぎの子文庫) 佐賀県

*地域の多くの人たちのご支援を受け、30周年を迎えることができました。

第49回 2019年

団体 諫早コモス音声訳の会(中路美知子さん) 長崎県

*受賞者のみなさま、おめでとうございます。今後のさらなる充実、発展をお祈りいたします。本会では、音声訳者養成講座を実施し、9名受講。また、リスナーさん10余名と交流会を行いました。よりよい録音図書を届けられるようがんばります。

個人 村上招子さん(家庭文庫ぼてと) 広島県

*受賞者のみなさま、まことにおめでとうございます。家庭文庫ぼてとの活動も待っているだけではなく、保育所、支援センターなどで出張読み語りを実施しています。いつも待っている子どもとともに、楽しみたいと思います。

個人 今井登美子さん(読み聞かせグループ「ゆめくらぶ」、なかっおはなしネットワーク) 大分県

*受賞のみなさま、おめでとうござ

います。大阪市の岩田さんの「てんやぐ」とてもすばらしいです。札幌市のふきのとう文庫さん、障がいの有無を問わず集える図書館、一度行きたいです。中津でも、絵本を手話で表現したり、点訳絵本を学校図書館などに置いて読み聞かせをしたりと、多くの人たちが活動しています。もつと拡がるとうれしいです。

団体 おはなしの木(前野麻美子さん) 宮崎県

*受賞、おめでとうございます。おはなしの木は県立図書館でのおはなし会をはじめ、木城えほんの郷のご協力をいただき、「絵本の読み聞かせ講座」や幼稚園、小学校でのおはなし会を続けております。若いお母さま方も増え、息の長い活動を心がけ、子どもたちの笑顔のためがんばっていききたいと思ひます。

第50回 2020年

団体 石垣市文庫連絡協議会(新城由利子さん) 沖縄県

*第27回 文庫まつりを8月24日に開催しました。絵本展示(戦後80年 絵本で平和のたねまき)では、潮平正道著「絵が語る八重山の戦争」、元ひめゆり学徒の川平カツ著「ひめゆりの心 八重山

の思い」、東日小学生新聞「の資料・写真を展示。絵本に接し、戦争・平和について考える機会になればと思います。

個人 吉井久子さん(家読姉、佐賀県親と子の読書会協議会) 佐賀県

*受賞者のみなさま、おめでとうございます! 今後のご活躍を楽しみにしております。私の読書活動は、0歳から高齢者を対象に、地域、幼稚園、保育園、小学校、図書館、老人ホーム、公民館と、忙しくおはなし会を開催。読み語り講座の講師として忙しく日々を送っています。

第52回 2022年

団体 萌えぎの会(猿木向子さん) 群馬県

*ご受賞のみなさま、おめでとうござい

ます。萌えぎの会では戦後80年の今夏、戦争体験のある会員3名にその様子を語ってもらい、冊子「戦争体験談と平和の願い」を作成しました。戦争を語り継ぐことの大切さを感じ、また平和を祈る、会員一同の想いです。

第53回 2023年

個人 原田紗千子さん(私設文庫「モモ」) 長野県

*受賞おめでとうござい

ます。長年にわたる「読書バリアフリー」へのご努力と、その活動内容に感

動しております。読書を広げるひとりととして、学ばせていただきます。ぶんこ「モモ」の最近、シニアさんの利用が多く、その読書力に圧倒されています。

個人 吉井久子さん(家読姉、佐賀県親と子の読書会協議会) 佐賀県

*受賞者のみなさま、おめでとうござい

ます! 今後のご活躍を楽しみにしております。私の読書活動は、0歳から高齢者を対象に、地域、幼稚園、保育園、小学校、図書館、老人ホーム、公民館と、忙しくおはなし会を開催。読み語り講座の講師として忙しく日々を送っています。

第52回 2022年

団体 萌えぎの会(猿木向子さん) 群馬県

*ご受賞のみなさま、おめでとうござい

ます。萌えぎの会では戦後80年の今夏、戦争体験のある会員3名にその様子を語ってもらい、冊子「戦争体験談と平和の願い」を作成しました。戦争を語り継ぐことの大切さを感じ、また平和を祈る、会員一同の想いです。

第53回 2023年

個人 原田紗千子さん(私設文庫「モモ」) 長野県

*受賞おめでとうござい

ます。長年にわたる「読書バリアフリー」へのご努力と、その活動内容に感

動しております。読書を広げるひとりととして、学ばせていただきます。ぶんこ「モモ」の最近、シニアさんの利用が多く、その読書力に圧倒されています。

個人 吉井久子さん(家読姉、佐賀県親と子の読書会協議会) 佐賀県

*受賞者のみなさま、おめでとうござい

ます! 今後のご活躍を楽しみにしております。私の読書活動は、0歳から高齢者を対象に、地域、幼稚園、保育園、小学校、図書館、老人ホーム、公民館と、忙しくおはなし会を開催。読み語り講座の講師として忙しく日々を送っています。

第52回 2022年

団体 萌えぎの会(猿木向子さん) 群馬県

*ご受賞のみなさま、おめでとうござい

ます。萌えぎの会では戦後80年の今夏、戦争体験のある会員3名にその様子を語ってもらい、冊子「戦争体験談と平和の願い」を作成しました。戦争を語り継ぐことの大切さを感じ、また平和を祈る、会員一同の想いです。

第54回 2024年

奨励賞 明徳館ボランティアの会(青木美貴子さん) 秋田県

*受賞おめでとうござい

ます。贈呈式の案内状を手にしたとたん、昨年の夢のような時間が甦りました。奨励賞受賞後、新聞掲載を皮切りに、市広報広聴課や放送局の取材を受けたことで、心身ともに忙しく過ぎた日々でした。

「第58回 全国優良読書グループ表彰」追加のお知らせ

『読書推進運動』696号(2025年11月15日発行号)に掲載いたしました「第58回 全国優良読書グループ表彰」一覧に2025年11月16日付で広島県より推薦いただきましたグループを追加いたします。

表彰グループ名

おはなしエルマー

グループ所在地

広島県広島市

代表者名

宮奥 祐子

(敬称略)

「子どもの読書週間」行事報告一覧」行事主催者 追加

『読書推進運動』695号別冊「2025年 第67回」子どもの読書週間」行事報告一覧」(2025年10月15日発行)に、秋田県藤里町より追加の報告がありましたので、ここに追加いたします。

●「子どもの読書週間」行事報告追加

《秋田県》

藤里町三代交流館図書室

・「ぬいぐるみおとまりかい」

・テーマ展示「あんなおかあさん、こんなおとうさん」母の日・父の日にちなんだ絵本展示

これにともない行事主催者数が

秋田県 50→51

合計 19268→19269

に変更されます。





日本書籍出版協会 副理事長の相賀昌宏さんの乾杯で祝賀会スタート！

おかわり！

受賞者活動紹介 & 贈呈式・祝賀会

受賞者からいただいた活動写真、贈呈式・祝賀会の様子をもう少しご紹介します



○ふきのとう文庫

【左】布の本「ドレミのうた」と高倉嗣昌さん・実枝子さん、野間会長 【右】ふきのとう子ども図書館の様子



日本のバリアフリー
児童図書を世界に紹
介しているJBBY
宇野和美会長と鳥塚
尚子事務局長からの
花束贈呈！



○岩田美津子さん

【左】ふれあい文庫での絵本製作 【右】ふれあい文庫・事務局長の須原正好さんと岩田さん、野間会長





1組目は南種子町おはなしこども会・北村蒼良さん（中学生！）、テイジー岩手・小池陽仁さん（大学生）、スギヤマカナヨさんの勝負。1分たたずに、小池さんがゴール！



優勝賞品は『さわるめいろ』です！

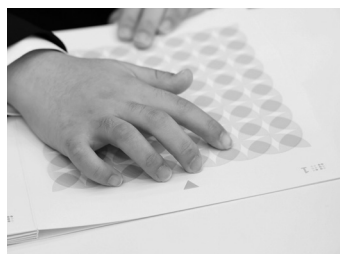
祝賀会メインイベント？ 『さわるめいろ勝負』

【ルール】

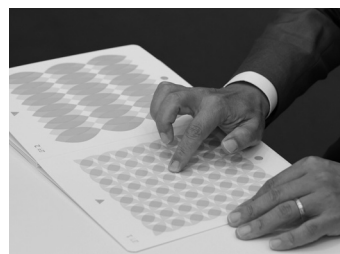
- ・はじめの30秒は目をつぶって挑戦
- ・30秒たったら、目を開けてOK
- ・いちばん早くゴールした人が勝ち。制限時間は3分間



勝負後、岩田さんにコツを教わった野間会長



岩田さんと「点字つき絵本の出版と普及を考える会」が協力した絵本『さわるめいろ1～3』（小学館）は、点字の線をさわってたどる迷路。カラーの印刷部に、パターン模様を配置し、点字迷路を隠す効果を出しているの、見える人も見えない人も、歯ごたえのある迷路遊びができます



野間会長、日本図書館協会・植松貞夫理事長、国立国会図書館国際子ども図書館・上保佳穂館長による2組目は、苦戦しながらも「あ、ゴール！」と上保館長の勝利！

【左】高倉さん、親地連の近藤君子さん・篠沢治子さん
【右】国際子ども図書館・上保館長、岩田さん
そのほか、東京子ども図書館、伊藤忠記念財団、小川範子さん（宇都宮子どもの本連絡会）のみなさんもお参加くださいました





【上】布の本・拡大写本について高倉さんと語る、
南種子町おはなしこども会・北村則子さん、大
平点字の会「どんぐり」・清水泰子さん

【下】フェルトでできた布の本とおもちゃ。見
てもさわってもあたたかさが伝わります



【上】てんやく絵本・点字つきさわる絵本がいつ
ぱい！

【下】テイジエ・岩手の成田優子さんは、甥の小
池さんに「点字つきさわる絵本『いないいない
ばあ』を読み聞かせしていたんですよ」と語っ
てくれました



読書推進運動協議会
X (旧 Twitter)

事務局報告(11月)

・4日「高橋松之助記念『朝の読書大賞』『文字・活字文化推進大賞』贈呈式出席(出版クラブビル)」

☆5日「野間読書推進賞 要項 出来」

☆7日「第55回 野間読書推進賞 贈呈式・祝賀会開催」

・9日「有楽町ブック・ウォークで読書週間ポスターギャラリ―実施(10日)☆10日「2026」こどもの読書週間」

・読書週間 標榜募集 締め切り

☆10日「機関紙『読書推進運動』 696号 入稿」

☆11日「機関紙『読書推進運動』 696号 責了」

☆14日「機関紙『読書推進運動』 696号 出来」

☆17日「『若い人に贈る読書のすすめ』リーフレット入稿」

・17日「上野の森親子ブックフェスタ 2026」運営委員会出席

・19日「伊藤忠記念財団『子ども文庫助成事業』選考会出席

☆20日「『若い人に贈る読書のすすめ』リーフレット 責了」

・25日「日本出版クラブ震災対策室 第6回運営委員会出席

☆28日「『若い人に贈る読書のすすめ』リーフレット 出来」

事務局報告(11月)

編集部・事務局の ひとこと

●「なぜ、この人たちが今まで受賞してなかったのか？」と、事業委員会・選考委員会、そして発表後も話題となった、今年の野間読書推進賞、ふきのとう文庫さん、岩田美津子さんにお祝いをと、贈呈式は多くの方に参列いただきました。

●贈呈式前に、受賞者から届いた展示用資料を確認しているうち、展示するだけではもったいない、なにかおもしろいことができなにか？と企画したのが「さわるめいろ勝負」。ルールは事務局スタッフによるリハールで決めました。挑戦してもらう方には「断られたらどうしよう？(とくに2組目のみなさま方)」と不安を抱えながら、当日にお願いしました。みなさん「できるかな？」「むずかしそう」など言いつつも、ご快諾くださり、ホッとしました。

●さて、勝負後、岩田さんに「むずかしいですね」とコツを聞いた野間会長、岩田さんが「なぜ、みなさん、指一本だけでは使わないんですか？私たちは、全部の指を使い、全体を把握しながらやりますよ」だって。目からウロコ！と、満面の笑みで教えてくれました。デイジー岩手の成田優子さん「私も全部の指を使っています。点字を読む指は全部ではないですが、小指などはページや行の端を確認しています」とのこと。たしかに、目で読むときも、ページ全体を視野に収めてから読む行と文字に焦点をあわせます。さわるめいろ、読む楽しさ、そして、おたがいの読み方を知る楽しさにあふれた、祝賀会となりました。(伸)